

VISION

Rest Assured for Everyone
すべての人に安心を

MISSION

Change Hospital, Change Community
病院を変える、地域を変える

SPIRIT

「愛情・親切・丁寧」の実践

VALUES

確かな急性期医療で安心を
断らない救急医療で安心を



MAKITA
Magazine

Makita General Hospital
Bringing safety and trust to the town through collaboration that changes the hospital and the community
病院と地域を変える連携で 安心と信頼をこの街に

vol. 13

下部消化管・肛門疾患

Fecal Occult Blood Test



便潜血検査は、大腸癌検診において最も広く用いられている方法です。

当法人（牧田総合病院および健診センター）では、2024年度に約 **66,000** 件の便潜血検査を実施し、そのうち約 **3,600** 件（約 5％）が陽性でした。さらに、陽性例の **14％** に大腸内視鏡検査を施行したところ、**9％** に悪性所見を認めています。しかしながら、便潜血陽性者における大腸内視鏡検査の受診率は依然として十分とはいえません。便潜血陽性は大腸癌や前がん病変の重要なサインであり、精密検査として大腸内視鏡検査は必須です。当院では鎮静下での苦痛軽減に配慮し、早期癌やポリープの段階での発見・切除を積極的に行っています。便潜血陽性の患者さんがおられましたら、ぜひ当院へご紹介くださいますようお願い申し上げます。

ご希望の方は、女医による検査も可能です。

理事長 荒井 好範

2024年度
下部内視鏡件数

3,781 件

〔 診療 2,162 件 健診 1,619 件 〕

うち 大腸癌件数

158 件 〔 生検含む 〕

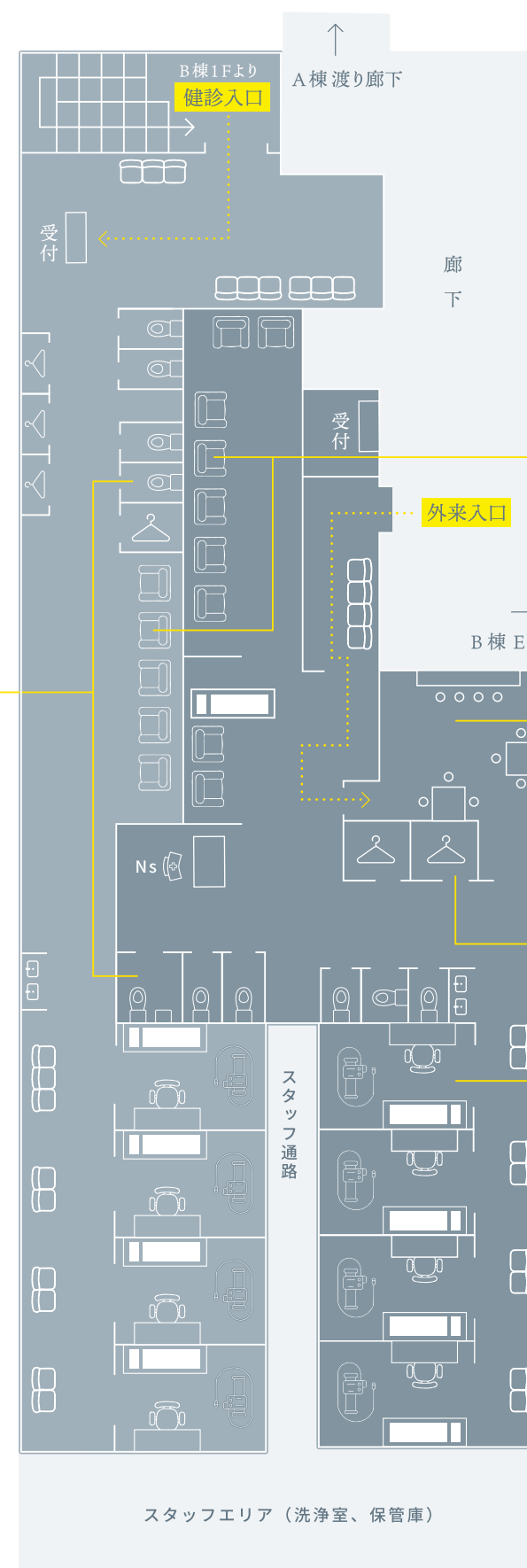
内視鏡センター

B 棟 3 F

健診エリア



トイレ 全 10 室



外来エリア



リカバリーチェア全 12 台



CS 前処置室（待機室）



更衣室

検査室 全 8 室



肛門疾患

脱肛手術前後

症例 1



全周性の脱肛を結紮切除術により完治

症例 2



全周性の脱肛を結紮切除術にて完治

症例 3



大脱肛の手術直前直後

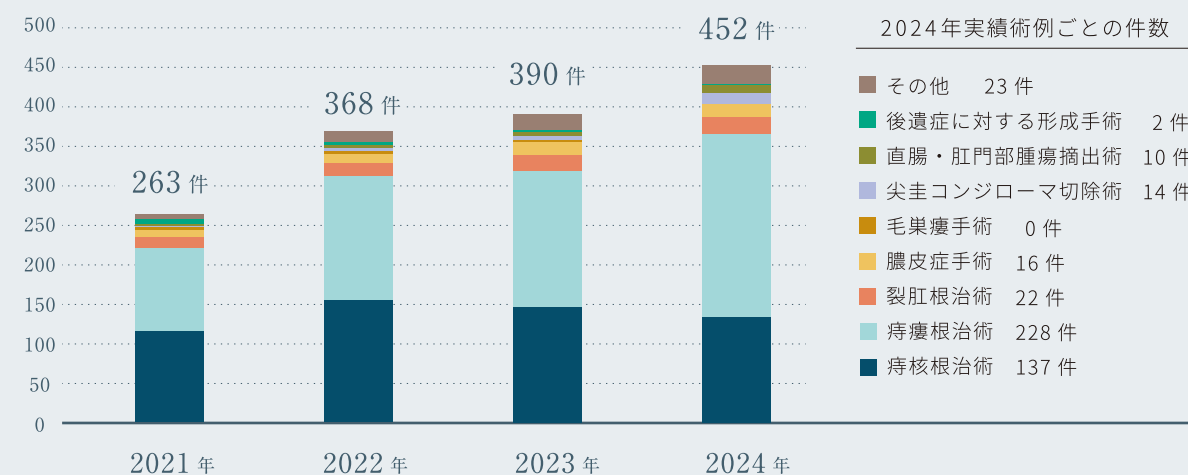
当科では、痔核・痔瘻・裂肛といったいわゆる肛門三大疾患を中心に、これらの疾患と鑑別が必要となる疾患（臀部膿皮症、尖圭コンジローマ、毛巣瘻など）、あるいは便秘症などの排便障害を対象として診療を行っています。外来診療、大腸内視鏡検査に加え、入院での肛門疾患手術を主に行っております。肛門は日常生活で常に使用する部位であり、患者さんのQOLに密接にかかわります。従って患者さんがどのような点を問題と感じているのか、例えば出血の性状はどうか、肛門痛が出現するのはどのような時かなどを問診で正確に把握するこ

とが診療の大きな助けとなります。当科では問診を重視しつつ、実際の肛門診察で得られる所見と問診の内容とすりあわせ診断を下します。また肛門診察の際には患者さんの不安や羞恥心などに配慮するよう心がけております。

患者さんには検査や治療に対し十分理解が得られるよう、わかりやすい説明を随時行っております。

表の通り、2021年に常勤医師 2 人体制となってから、肛門手術件数は毎年増加しております。肛門手術を行う際は、根治性と機能温存の両立が重要です。当院では確実かつ低侵襲で

肛門科手術実績



整容性に優れ、術後疼痛を大幅に軽減した手術を行っております。また抗血栓薬内服中など併存症のある患者さんにも内科など他の診療科と連携し、安全な手術治療を提供しています。

当科で行う代表的な肛門手術について説明させていただきます。痔核に対しては結紮切除術半閉鎖法を行っております。肛門上皮を適切に温存しつつ痔核の郭清を確実にを行い、根治性を保ちつつ術後狭窄を起こさないよう工夫しています。

痔瘻に対しては肛門上皮および外括約筋を温存しつつ痔瘻の処理

を確実に行う皮下瘻管切離・内括約筋切開法（SIFT・IS 法）を行っております。通常の括約筋温存手術と同等の根治性を保ちつつ、より早期の治癒が望め整容性に優れております。

裂肛に対しては内括約筋拡張を伴う裂肛切除術、あるいは狭窄形成手術（皮膚弁移動術）を病状に応じて行い、症状を改善しつつも過大侵襲とならないようにしています。

これらの手術を基本とし、患者さんの状況に合わせて柔軟に手術を行い、患者さんが高い満足を得られるよう日々工夫を重ねております。

多発痔瘻に対する低侵襲手術

症例 4



肛門周囲に 3 本の痔瘻

3 か所とも低侵襲手術施行

症例 4 の 術後経過



20 日後

43 日後に完治し変形なし

症例 5



手術直前

手術直後

症例 5 の 術後経過



26 日後

68 日後完治（変形を残さないで完治）

症例 6



7 本之多発痔瘻

すべてに低侵襲手術施行

症例 6 の 術後経過



手術後 22 日

69 日後完治

下部消化管疾患

当院では炎症性腸疾患や腫瘍性病変など下部消化管疾患に幅広く対応しており、移転後は内視鏡検査体制を拡充し迅速な診療を行っております。抗凝固療法中の心疾患・脳疾患合併例も他科と連携し安全に治療を進めております。

また消化器センターとして外科・内科の垣根を越え、緊急症例にも24時間365日対応可能です。ご紹介いただいた患者さんに対し、迅速かつ丁寧に診療し、必要に応じて情報を共有させていただきます。

2024年度症例別抜粋

肛門出血	11件	下部内視鏡処置	
結腸憩室炎	64件	ポリペク、EMR	854件
直腸潰瘍	2件	大腸 ESD	33件
虚血性腸炎	48件	大腸ステント	21件
潰瘍性大腸炎	42件	軸捻転	24件
クローン病	8件	大腸止血	22件
結腸閉塞	21件		
大腸癌	85件		



上行結腸出血

88歳 女性

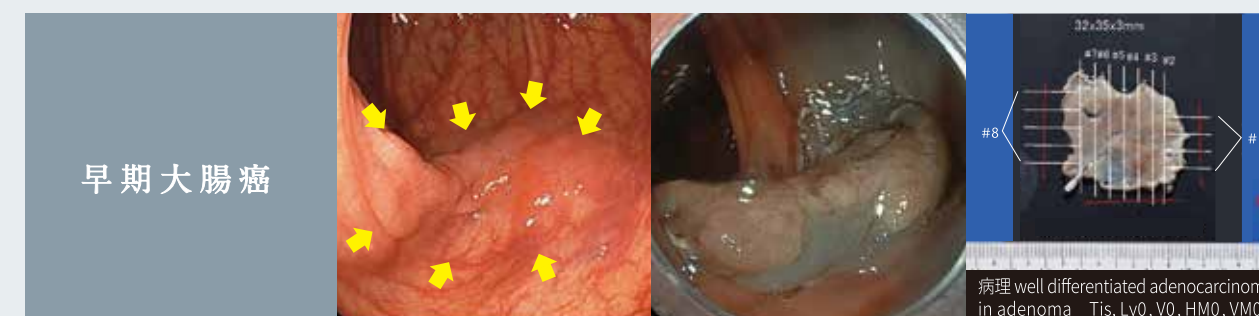
上行結腸 angioectasia からの出血を認め内視鏡的クリップ止血術した



横行結腸
大腸がん閉塞

92歳 女性

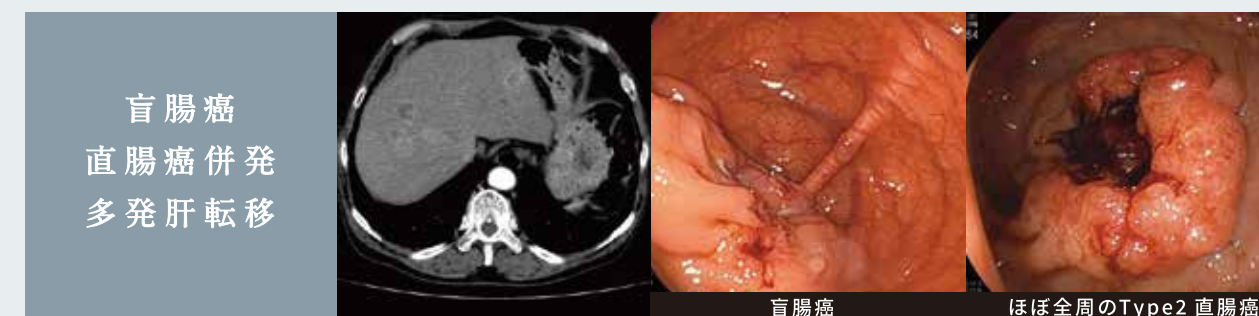
腹痛・食欲不振から腸閉塞を認めイレウス管挿入し、大腸閉塞に対してはメタリックステント挿入



早期大腸癌

57歳 女性

便潜血反応陽性で大腸内視鏡検査し横行結腸φ35 mm大の平坦隆起病変 ESD 施行



盲腸癌
直腸癌併発
多発肝転移

71歳 男性

排便障害および CT で多発肝転移を認め、紹介受診。上記診断し Adenocarcinoma(tub1) 通過障害なく化学療法の方針



大腸クローン病

51歳 女性

下行結腸口側に狭窄ありスコープ挿入困難。点状白苔を有する小隆起病変多発 壁の浮腫性変化と数石状変化



潰瘍性大腸炎

46歳 男性

横行結腸から直腸にかけての連続性活動性炎症。TNF-α療法 + PSL30 mg 絶食治療中 Mayo 分類 3



横行結腸虚血性腸炎
限局性直腸潰瘍

78歳 男性

心房細動、血栓性脳梗塞治療後下血



直腸潰瘍
肛門出血

93歳 男性

難治性下血で入院精査し、肛門出血に対してクリップ止血術をした